

個人投資家様向け 株式会社エノモト

会社説明資料

2021年12月1日

ENOMOTO Co.,Ltd.

東証一部 証券コード:6928

1.会社概要



金型説明動画

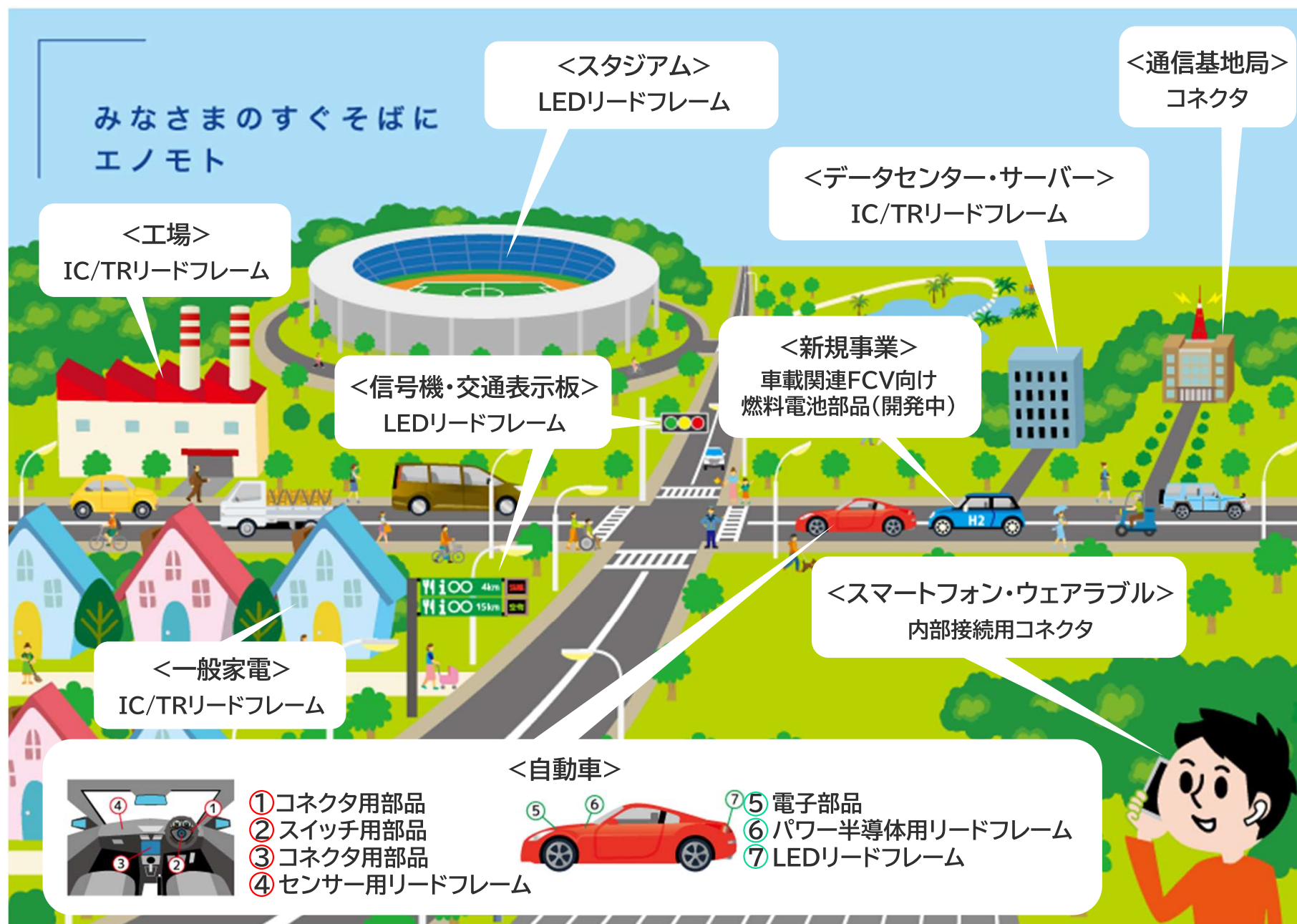
<https://youtu.be/pYPvBBwpc6A>

会社案内動画

<https://youtu.be/DU-AF3ihWHM>

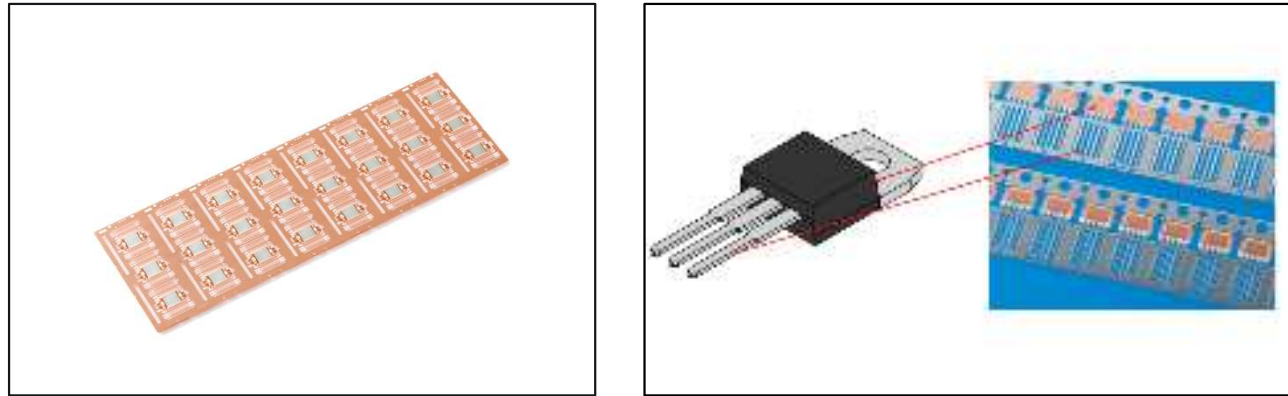


社名	株式会社 エノモト ENOMOTO Co.,Ltd.
設立	1967年4月(創業 1962年7月)
代表取締役社長	武内 延公
本社所在地	山梨県上野原市上野原8154-19 TEL : 0554-62-5111
生産拠点	本社工場:山梨県甲州市／山梨県上野原市 津軽工場:青森県五所川原市 岩手工場:岩手県上閉伊郡大槌町 技術部 :山梨県甲州市 エノモトフィリピン:フィリピン カビテ州 (連結子会社) 中山エノモト:中国 広東省 中山市 (連結子会社)
資本金	4,749百万円
従業員数 (2021年3月31日現在)	国内 :486人 ※国内従業員 平均年齢 41.8歳 フィリピン:526人 中国 :215人
事業内容	(1).各種半導体用部品(リードフレーム)及びコネクタ用部品製造、販売 (2).プレス金型及びインサート成形金型の開発、設計、製作

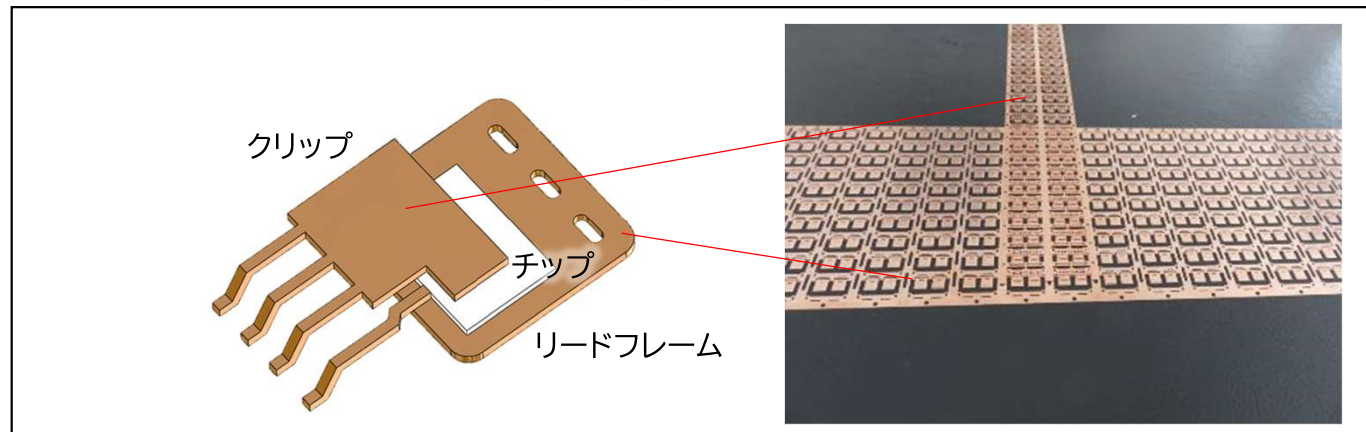


- パワー半導体のチップを乗せる「台座」及び通電させる「端子」の部分
- 先端品では高電圧・高電流に耐える為、フレームとクリップでチップを挟む
→ワイヤレスボンディング方式
- 高い精度や清浄性、品質安定性の要求 → 当社の優位性

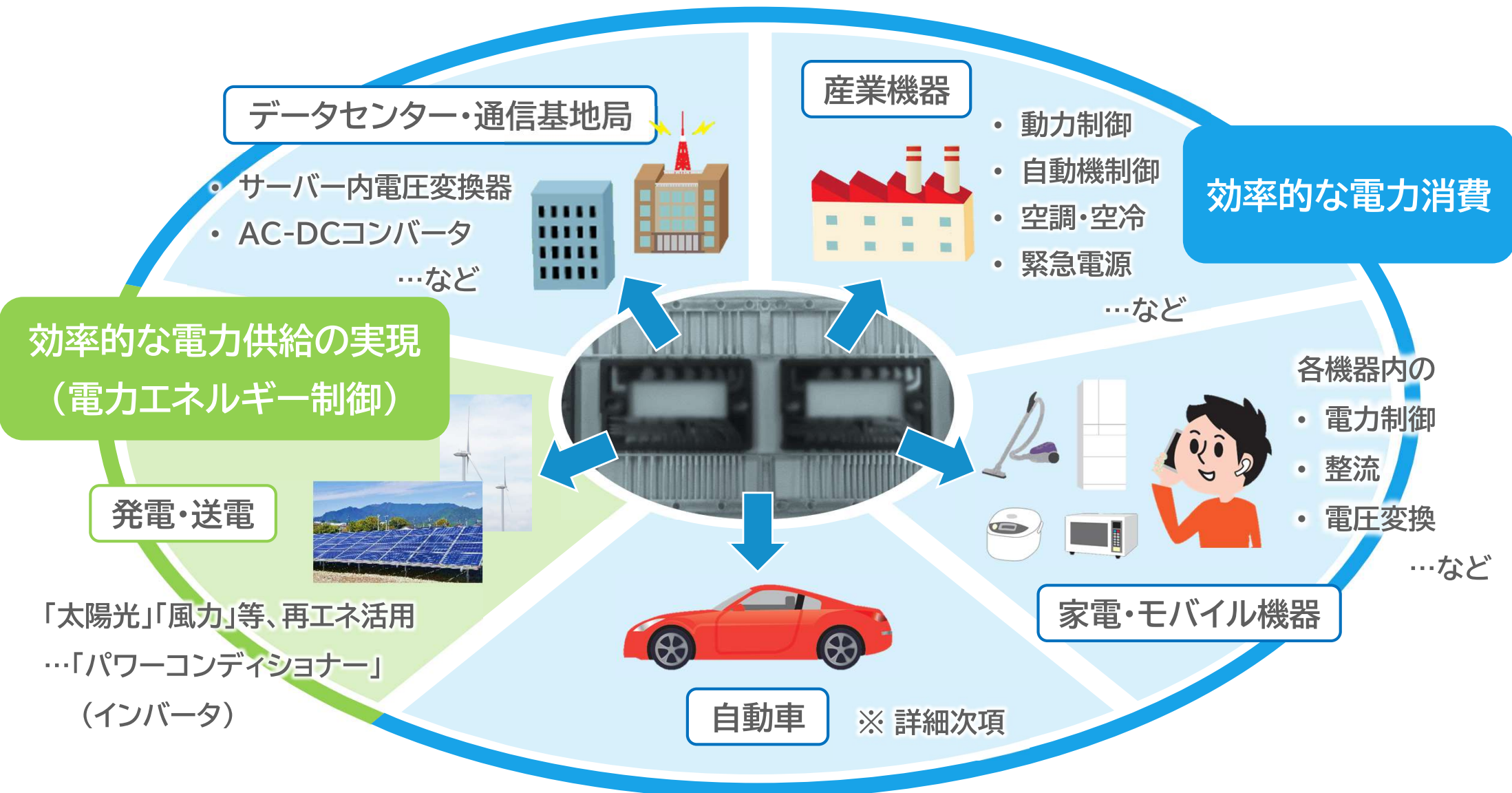
IC・トランジスタ用リードフレーム



ワイヤレスボンディング方式 パワー半導体用リードフレーム



- 環境側面からも、新たな発電技術の開発・発展、高効率な電力供給を支える高機能パワー半導体に注目が集まる
- 高温動作、高パワー密度、高速動作などにより、高出力・省エネに寄与



エンジン制御

ECU
(エンジンコントロールユニット)

ADAS

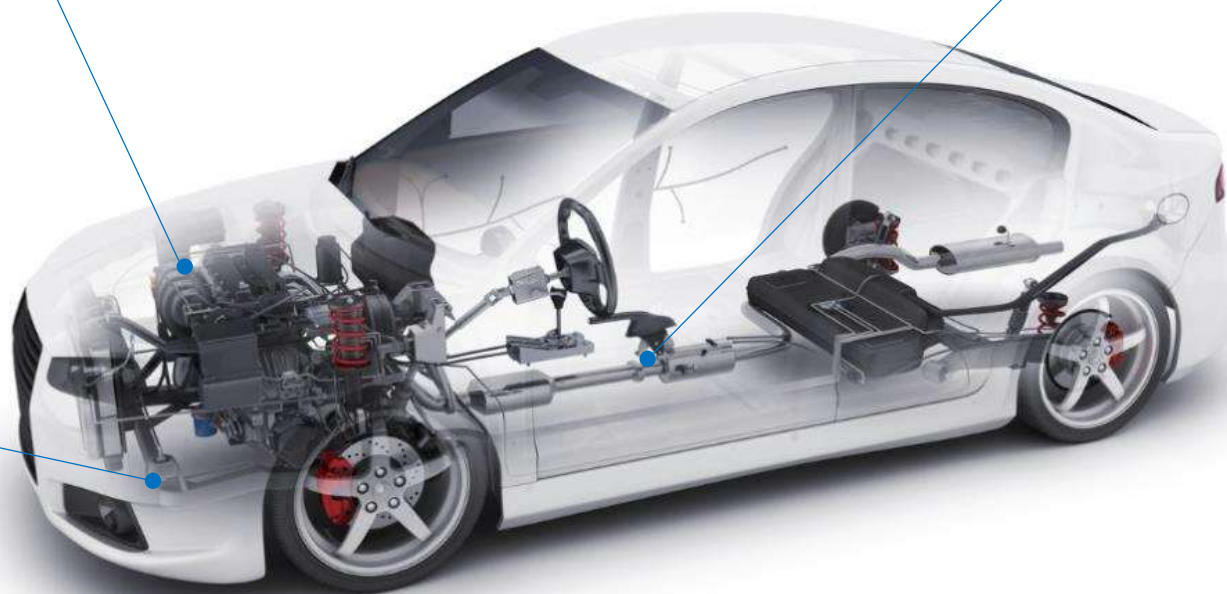
センサー

ボディ制御

ヘッドランプ
ルームランプ
AV・アクセサリ
パワーウィンドウ
オートマチックドアロック

パワートレイン制御

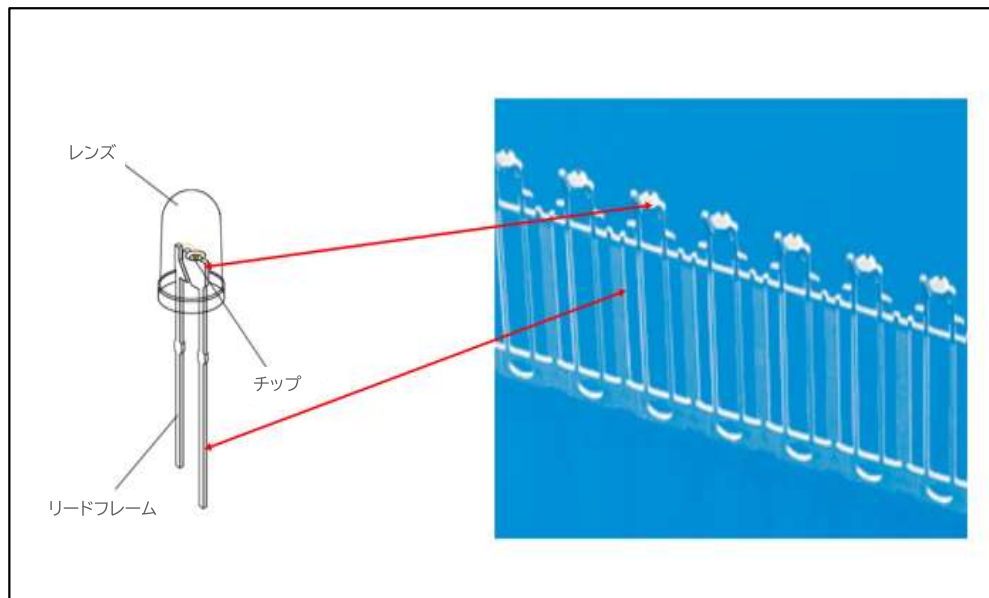
HEVモーター
トランスミッション
ブレーキ
ステアリング
ICレギュレータ



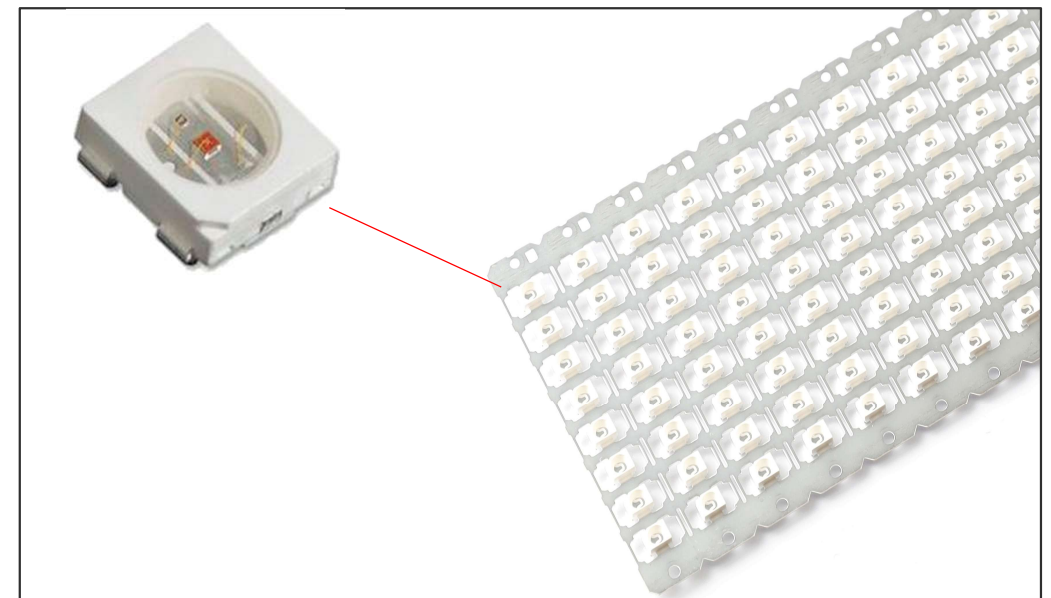
パワーデバイス適用製品
計40品種以上

- 当社の販売先(LEDメーカー)でチップを乗せて光源となる
- チップを乗せる部分(カップ)の高い形成技術で、より鮮やかな輝きを作る
- 大きく分けて砲弾型と表面実装(SMD)の2種類
- 砲弾型のリードフレームを大量生産できる、国内唯一のメーカー

LED用リードフレーム(砲弾型)



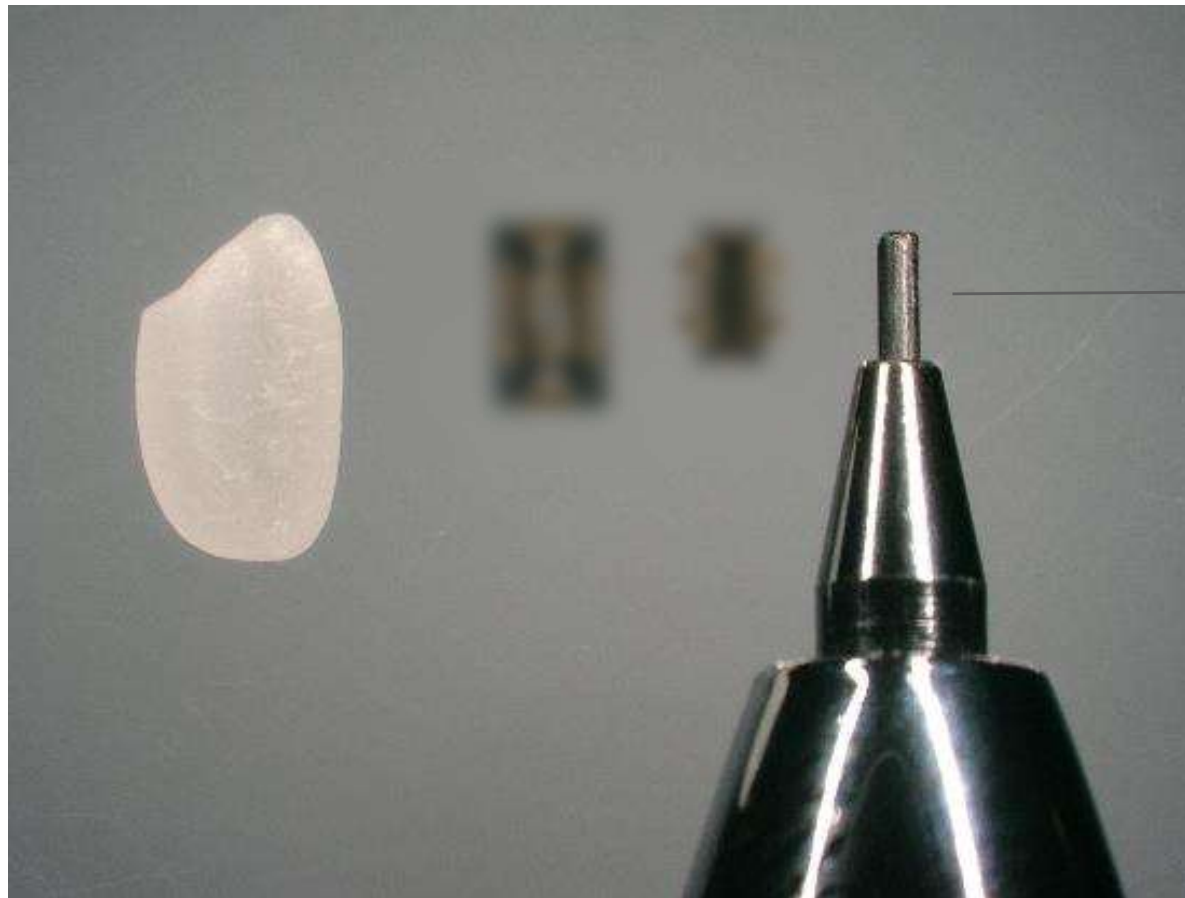
LED用リードフレーム(SMD)



- 世界最高水準の超精密コネクタ部品

使用先…スマートフォン

ウェアラブルデバイス(スマートウォッチ、ワイヤレスイヤホン等)



シャープペンシル芯
(ϕ 0.5mm)

- スマートフォン・ウェアラブル端末向けの極小部品から、自動車向けの特殊で大きな部品まで幅広く対応
- 超微細な部品を高品質大量生産



小型化・高機能化

自動車の電装化

スマートフォン

自動車

ウェアラブル端末

その他

スマートウォッチ ワイヤレスイヤホン

…など

…など

- 車載向けを中心に高電圧・高電流仕様のパワー半導体用リードフレームが伸長
- コネクタ部品ではスマートフォンやウェアラブル端末向けの狭ピッチ、低背製品が伸長

その他

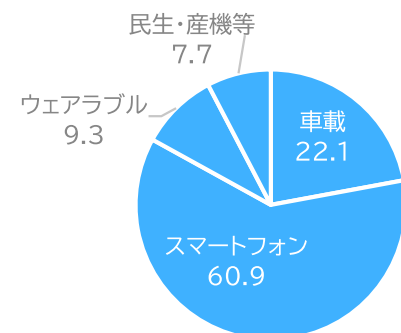
売上高 688百万円
 構成比 3.0%

IC・トランジスタ用リードフレーム

売上高 7,287百万円
 構成比 31.7%

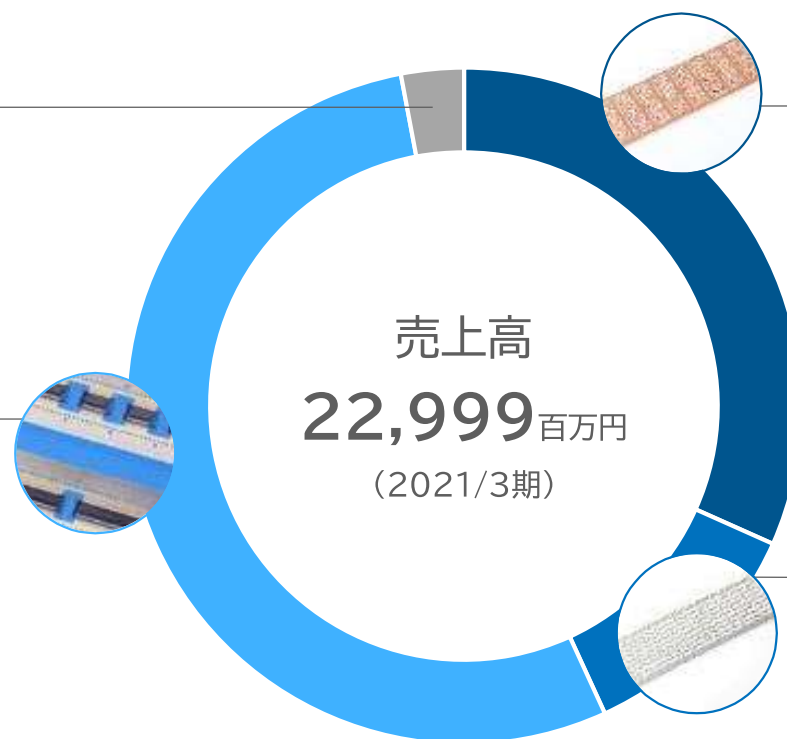
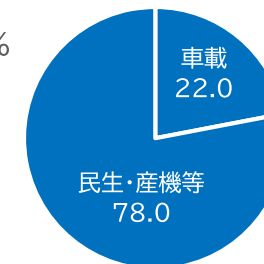
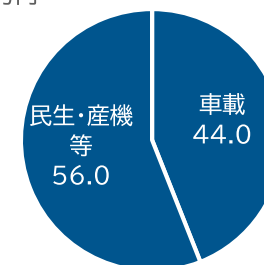
コネクタ部品

売上高 12,384百万円
 構成比 53.8%



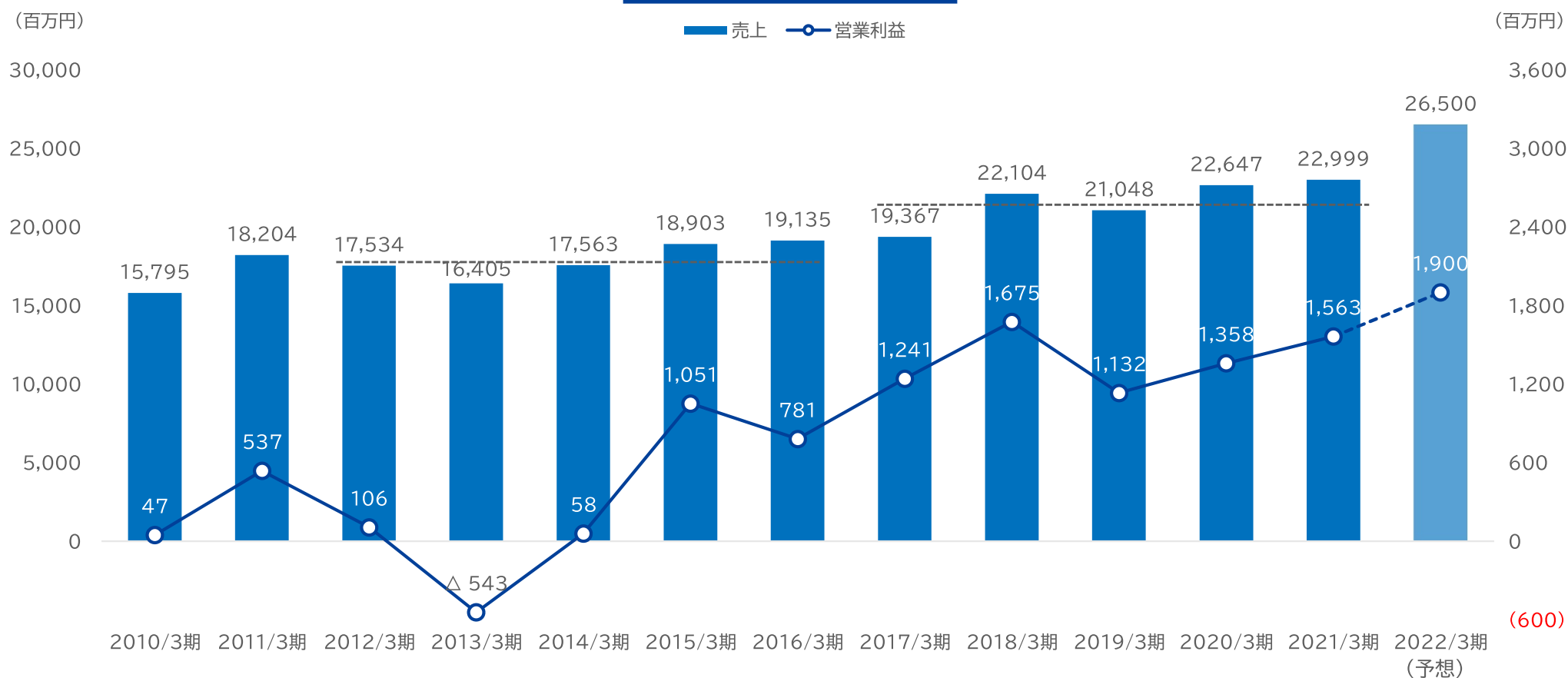
オプト用リードフレーム

売上高 2,639百万円
 構成比 11.5%



- 2015年以降、スマートフォン向けの狭ピッチコネクタ、半導体用リードフレームの伸長により、売上高は前期実績で230億円弱、営業利益も15億円超の水準へ
- 当期は売上高265億円、営業利益19億円と売上・利益とも過去最高を予想

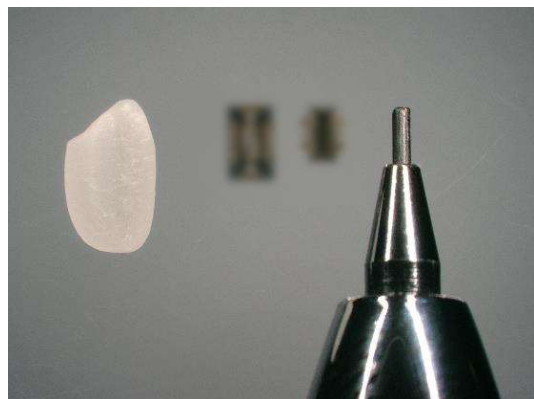
売上高・営業利益の推移



(600)

1

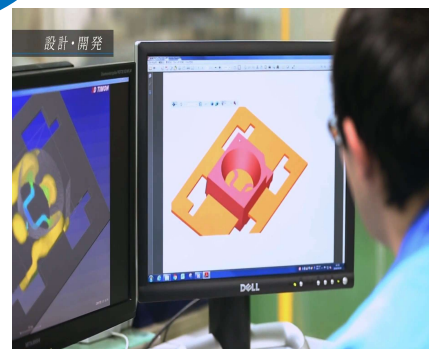
金属と樹脂の複合加工技術力



技術力

2

高品質・大量生産体制を支える
生産技術力



3

国内外での同品質の生産体制



フィリピン



中国

一貫生産

4

独立系としてのサービスポジション

材料メーカーや
協力会社

幅広い顧客
ニーズ

最適な調達

エノモト

柔軟な対応

特定の資本に縛られない
自由な営業方針

2.2022年3月期第2四半期決算・ 2022年3月期業績見通し



- 前年度上期はコロナ禍の影響を大きく受けたが、前年度下期からの需要回復が継続し、当上期は大幅な増収増益

	2021/3期 2Q累計		2022/3期 2Q累計		期比較	
	実績 (百万円)	売上比 (%)	実績 (百万円)	売上比 (%)	前年同期比 (%)	売上比増減 (pt)
売上高	10,464	100.0	13,714	100.0	+31.1	-
売上総利益	1,545	14.8	2,283	16.7	+47.8	+1.9
販管費	1,097	10.5	1,132	8.3	+3.2	△2.2
営業利益	448	4.3	1,151	8.4	+156.9	+4.1
為替差損	15	-	4	-	△73.3	-
経常利益	459	4.4	1,166	8.5	+153.7	+4.1
当期純利益	332	3.2	848	6.2	+155.4	+3.0

2022年3月期 第2四半期決算 業績報告② (前年度下期比較)

- 前年度下期からの世界的な自動車及び産業用機器の需要回復や、携帯端末などの消費マインドの改善基調が継続
- リードフレームを中心に、銅などの素材高を売価に転嫁、営業利益率は低下したが増収増益
- 純利益は前年度下期に特別利益(繰延税金資産)を計上したことにより減益

※ 前年同期比が新型コロナウイルス感染症の影響が極端に大きく比較対象に適さないため、前年度下期と比較しております

	2021/3期 下期		2022/3期 2Q累計		期比較	
	実績 (百万円)	売上比 (%)	実績 (百万円)	売上比 (%)	前期下期比 (%)	売上比増減 (pt)
売上高	12,535	100.0	13,714	100.0	+9.4	-
売上総利益	2,270	18.1	2,283	16.7	+0.6	△1.5
販管費	1,155	9.2	1,132	8.3	△2.0	△1.0
営業利益	1,115	8.9	1,151	8.4	+3.2	△0.5
為替差損	27	-	4	-	△85.2	-
経常利益	1,102	8.8	1,166	8.5	+5.8	△0.3
四半期純利益	1,157	9.2	848	6.2	△26.7	△3.0

- IC・トランジスタ用リードフレームは、自動車向けや産業用機械向けを中心に好調継続
- オプト用リードフレームは、交通インフラをはじめディスプレイ向けや自動車向けのLEDを中心に需要は回復基調
- コネクタ用部品は、スマートフォンの新モデル向け部品の出荷が1Qから始まり、堅調に推移

単位:百万円	2021/3期							2022/3期			
	1Q	2Q	上期 累計	3Q	4Q	下期 累計	通期	1Q	2Q	上期 累計	前年 下期比
IC・トランジスタ用 リードフレーム	1,735	1,516	3,251	1,911	2,123	4,034	7,287	2,380	2,288	4,668	+15.7%
オプト用 リードフレーム	678	615	1,293	530	814	1,344	2,639	969	921	1,891	+40.7%
コネクタ用部品	2,530	3,054	5,584	3,686	3,112	6,798	12,384	3,320	3,440	6,761	△0.5%
その他	168	164	332	168	187	355	688	195	198	393	+10.7%
合計	5,113	5,351	10,464	6,296	6,238	12,535	22,999	6,866	6,848	13,714	+9.4%

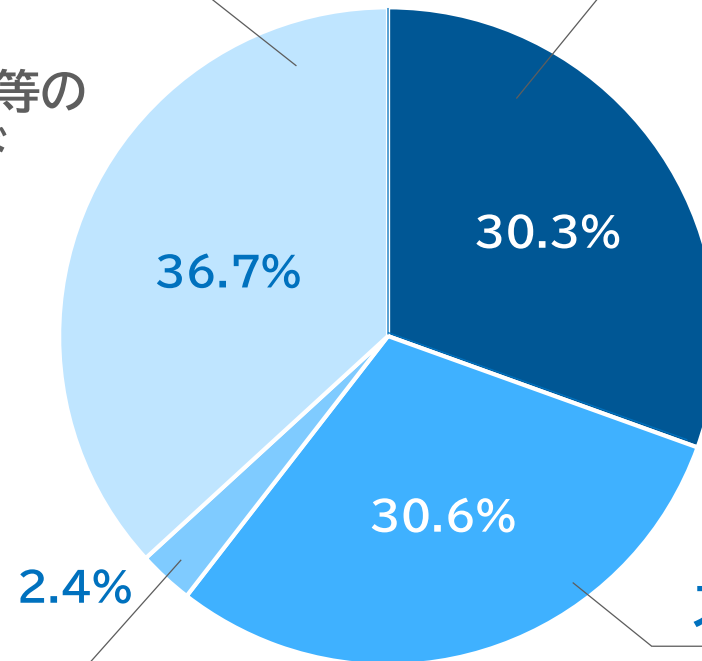
- ・ 車載、民生・産機・その他の顕著な復調により、本来の各分野1/3ずつという配分に回帰
- ・ ウェアラブル向け市場は成長が続いているが、上期は新商品発売前で一時的に調整

民生・産機・その他

- ・ 汎用的用途のパワー半導体用リードフレームや交通インフラ等のディスプレイ向けLED用リードフレームなどが増加

車載

- ・ 自動車の需要回復によりパワー半導体用リードフレームやエアバッグ用コネクタ等が復調しているが、半導体不足や受入国の感染拡大による影響から一部で調整



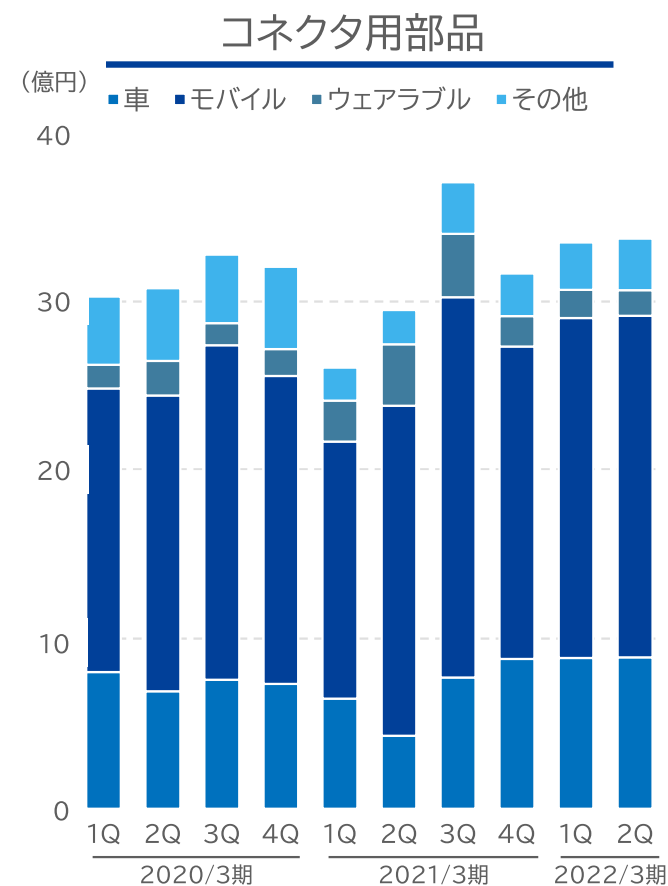
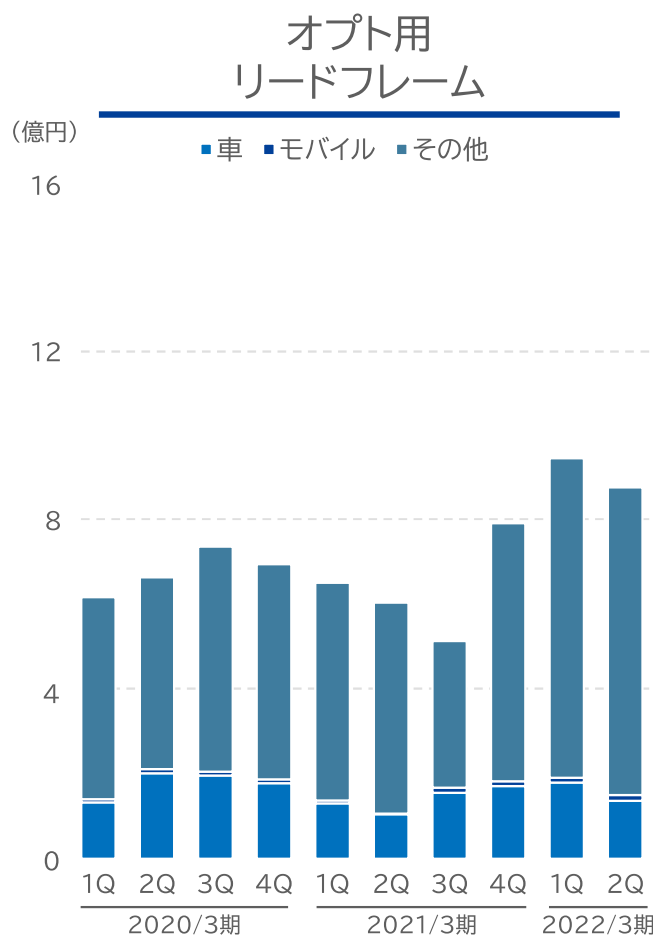
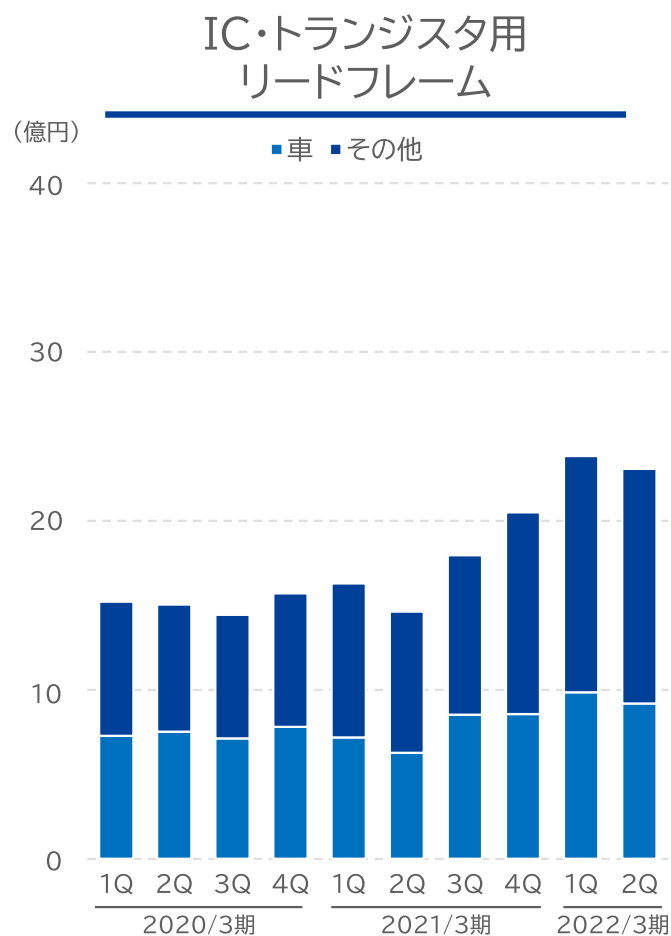
ウェアラブル

- ・ 季節的要因および昨年後半以降の急伸から一時的な調整局面

スマートフォン

- ・ 当期モデルは立ち上がりが早く1Qから出荷開始
- ・ 下期比では季節要因により構成比低下

- ・ リードフレーム、コネクタ用部品とも好調継続、コロナ禍前の2020年3月期上期の売上を上回った
- ・ 車載及び民生向けのパワー半導体需要がIC・トランジスタ用リードフレームをけん引
- ・ 中国の交通インフラ向けや大型ディスプレイ向け需要により、オプト用リードフレームは回復基調
- ・ モバイルなど情報通信端末の普及や、堅調な車載向けがコネクタ用部品の成長を支える



※上方修正

- ・ リードフレーム・コネクタ用部品の需要は、パワー半導体やポータブル機器等の中長期的な成長から高水準を維持
- ・ 上期に在庫確保を目的とした前倒し受注も一部で発生し、業績は予想を上回って推移
- ・ 下期は、上期の前倒し受注による調整や季節調整を一部で見込むが、限定的なものと予想

	2021/3期			2022/3期				期比較	
	上期実績 (百万円)	通期実績 (百万円)	売上比 (%)	上期実績 (百万円)	期初予想 (百万円)	修正予想 (百万円)	売上比 (%)	前期比 (%)	売上比増減 (pt)
売上高	10,464	22,999	100.0	13,714	23,000	26,500	100.0	+15.2	-
売上総利益	1,545	3,815	16.6	2,283	3,850	4,150	15.7	+8.8	△0.9
販管費	1,097	2,252	9.8	1,132	2,200	2,250	8.5	+0.0	△1.3
営業利益	448	1,563	6.8	1,151	1,650	1,900	7.2	+21.5	+0.4
経常利益	459	1,561	6.8	1,166	1,600	1,900	7.2	+21.7	+0.4
当期純利益	332	1,489	6.5	848	1,350	1,500	5.7	+0.7	△0.8
1株当たり 純利益		221.66円	-		200.79円	222.87円	-	-	-

- IC・トランジスタ用リードフレームはパワー半導体向けなどの伸長により増収を予想
- オプト用リードフレームは、交通インフラをはじめディスプレイ向けや自動車向けのLEDを中心に復調
- コネクタ用部品はスマートフォン・ウェアラブル端末向けは堅調な推移を予測するが、上期に生じた一部の前倒し受注の影響を下期に見込み、通期では前期比5%増収を予想

	2021/3期			2022/3期				
	上期実績 (百万円)	通期実績 (百万円)	構成比 (%)	上期実績 (百万円)	期初予想 (百万円)	修正予想 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)
IC・トランジスタ用 リードフレーム	3,251	7,287	31.7	4,668	7,423	9,000	34.0	+23.5
オプト用 リードフレーム	1,294	2,639	11.5	1,891	2,697	3,800	14.3	+44.0
コネクタ用部品	5,585	12,384	53.8	6,761	12,450	13,000	49.1	+5.0
その他	333	688	3.0	393	427	700	2.6	+1.7
合計	10,464	22,999	-	13,714	23,000	26,500	-	+15.2

3.中期経営計画 (2022年3月期～2024年3月期)





社是

心技一体

経営理念

経営の中心は人であり、
健全なものづくりを通じて、
豊かな社会の実現に貢献する。

ビジョン2030

「金型の技術で未来を創る」

より小さく より速く 最先端の技術で
暮らしとビジネスのベストパートナーを目指す

ありたい姿

- 金型技術の進化で、最先端の市場に高品質な部品をスピーディに提供し続ける
- 失敗を恐れずチャレンジする職場環境づくりを通じてイノベーションを生み出す
- 燃料電池部品の実用化で脱炭素社会の実現に貢献する

- 5月に発表した1st STEPでの売上高・営業利益目標は年度末に見直しを予定
- ウェアラブル端末等向けコネクタ、パワー半導体向けリードフレーム増産による増収
- 増収効果に加えて、自動化等により付加価値率(限界利益率)向上で、増益を計画

1st STEP 目標数値

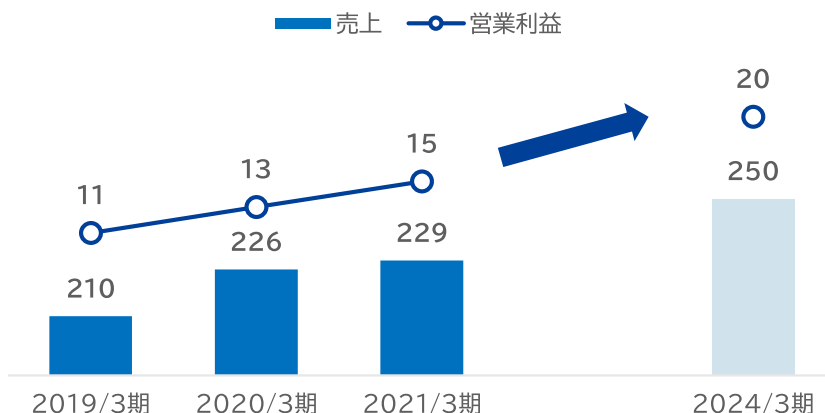


増収施策:成長分野への投資

情報通信分野(ウェアラブル端末等)
⇒ 津軽工場生産能力増強

EV・自動運転分野への注力
⇒ フィリピン工場での受注強化

売上高・営業利益



限界利益引き上げ施策

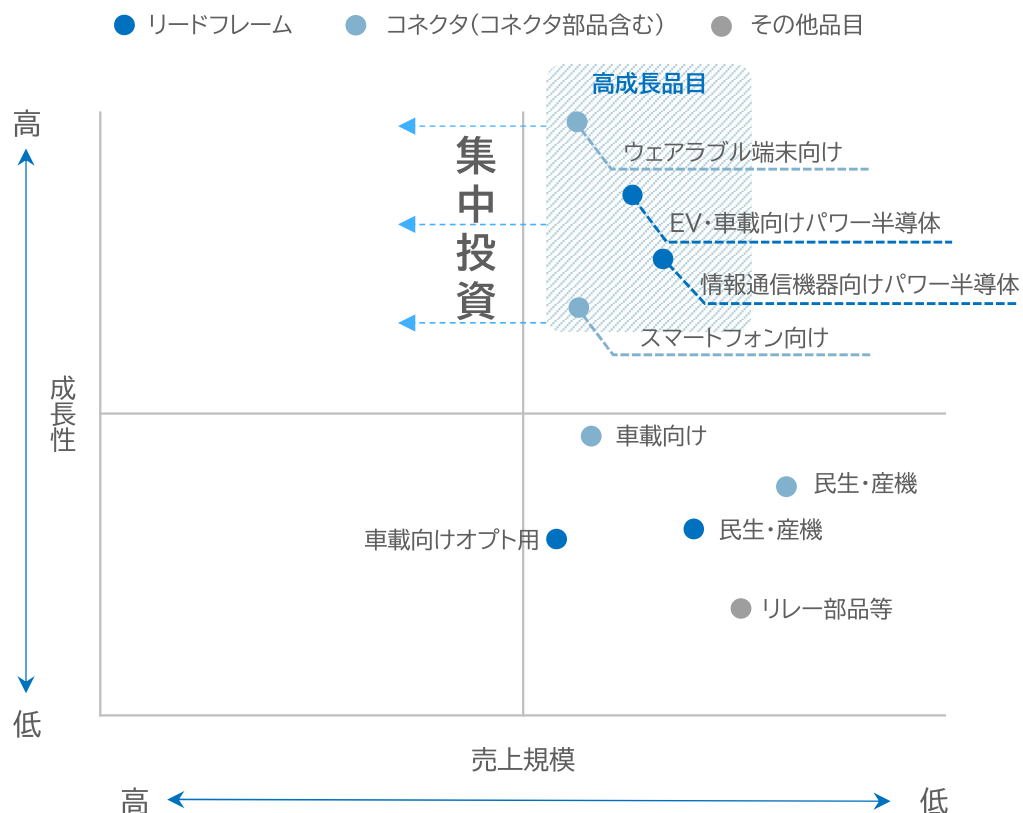
量産工程の自動化

金型製作のデジタル化

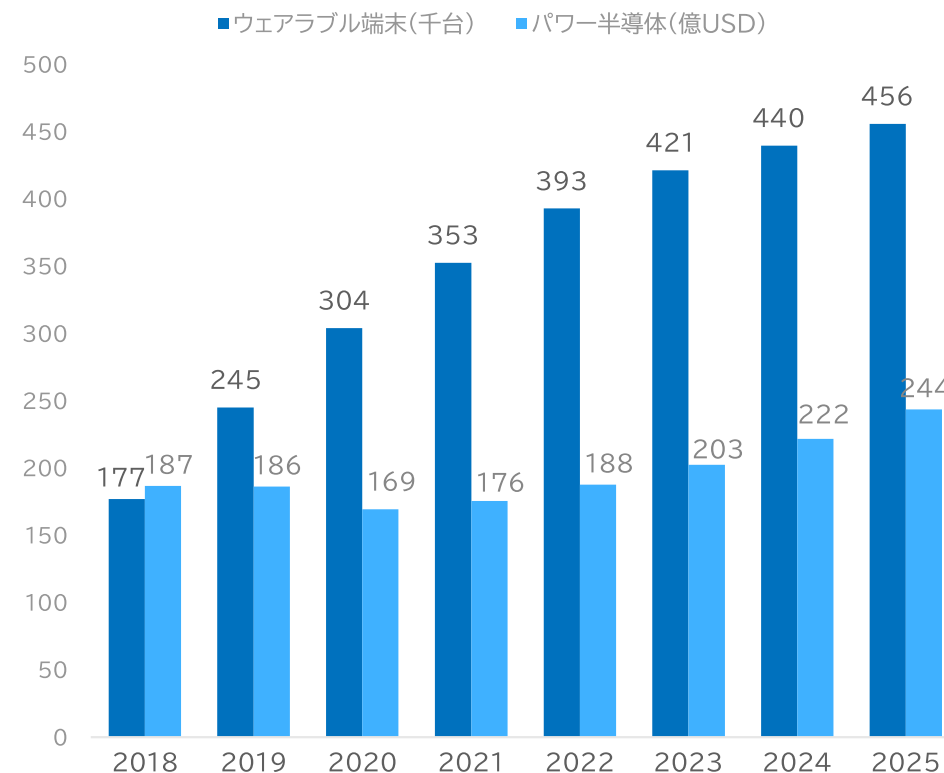
海外拠点の強化

- ウェアラブル端末向けなどの狭ピッチコネクタやパワー半導体向けリードフレームなど、当社の超精密・大量生産技術が活かせる分野に集中投資

取扱い品目の成長性



成長分野の世界市場予測



ウェアラブル端末はスマートスピーカー・スマートウォッチ・ヘルスケアバンドの合算

出所: ウェアラブル端末は富士キメラ総研「2020年 ワールドワイドエレクトロニクス市場総調査」
 パワー半導体は矢野経済研究所「2020 進展するパワー半導体の最新動向と将来展望」

- 津軽工場増築は当初の計画通り11月末竣工。年明けの稼働開始に向けて準備進行中

既存工場床面積 :約 8,776㎡

増築工場床面積(予定):約 7,162㎡

増築後の工場床面積 :約 15,938㎡

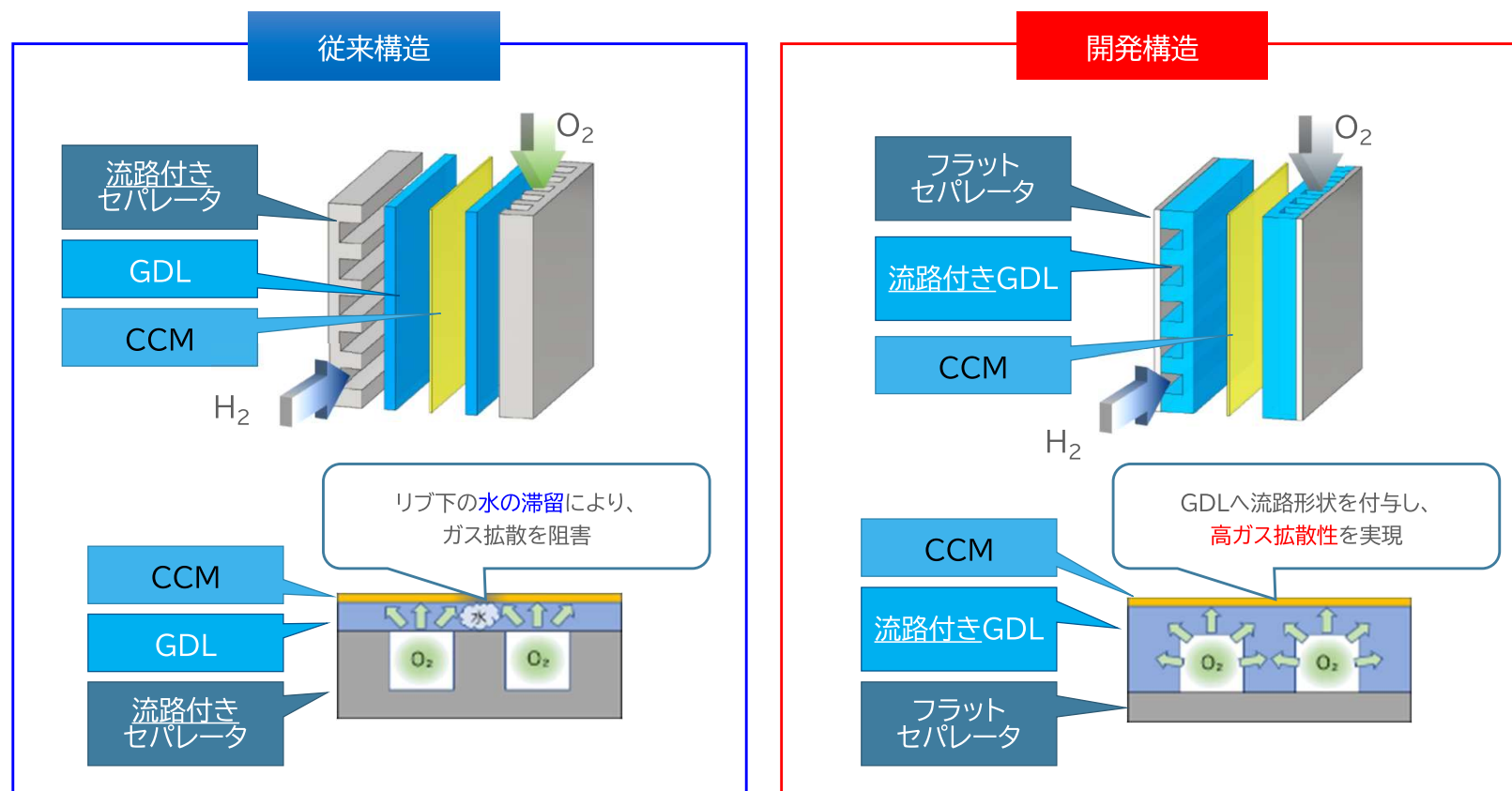
総投資額(概算) :31億円(建物及び機械、設備等)

引渡 :2021年12月中旬(11月末竣工済)



☆ 当開発事業は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) 共通課題解決型産学官連携研究開発事業 採択プロジェクトです

- 固体高分子型燃料電池(PEFC)向けガス拡散層(GDL)一体型金属セパレータを山梨大学と共同開発
- 新開発の流路付きGDL(GDLFC+)で大幅な高電流密度化を実現、当社技術により汎用樹脂にガス流路を成形
- 金属セパレータ、GDLを自社生産し、ガスソケットと一体化し、コストを削減
- 2025年に燃料電池車向けのテスト開始、将来は電気自動車、ドローン、緊急電源、エネファーム等での実現を図る

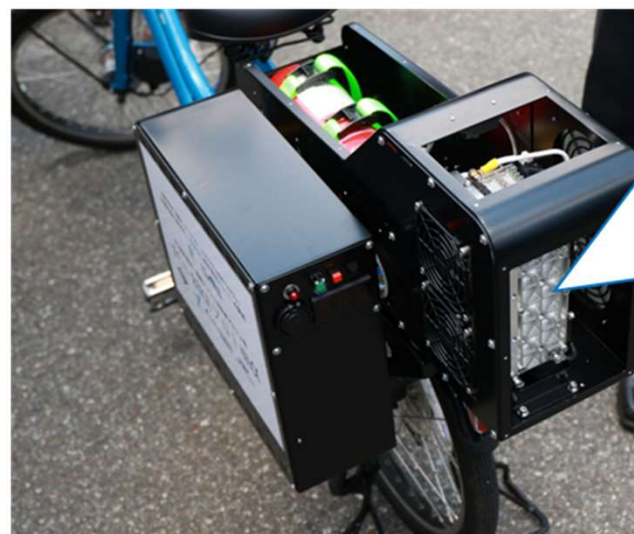


- ・メインターゲットはFCV – 2030年FCV市場規模4兆7,520億円(富士経済予測)
- ・2021年3月時において特許6件(国際:4件、国内:2件)出願中
- ・量産に向け2015年比約1/10コストへの削減を目指す



電動アシスト自転車に 当社製「ガス拡散層一体型セパレータ」が搭載

- 5月31日(月)「燃料電池電動アシスト自転車試作機完成披露式」が山梨大学で挙
- 日本で初めて制作された国産の燃料電池を電源とする電動アシスト自転車に
当社製「ガス拡散層一体型セパレータ」が搭載
- 「燃料電池産業は今後の成長が見込める将来有望な分野。ぜひ県を挙げて支援していきたい」
(長崎幸太郎 山梨県知事)



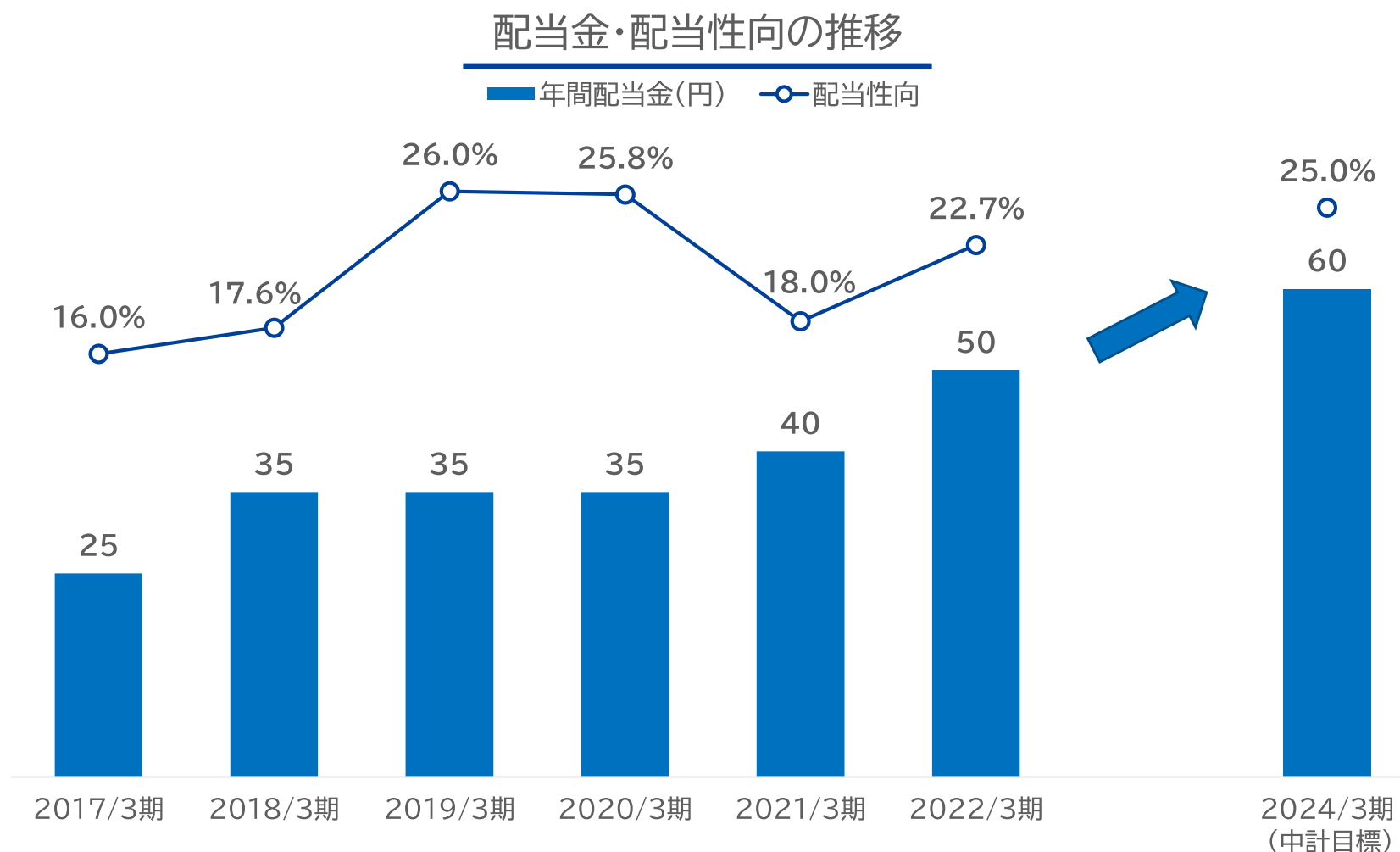
※山梨大学ホームページの写真を使用

FCスタック



当社開発品

- **業績上方修正に伴い、今期の年間配当予想も期初予想の1株当たり45円から50円に増配**
- ビジョン2030 1st STEPでは、津軽工場への投資等もあり、増配するも配当性向25%を目途に安定配当を継続
- 随時決算内容及び投資状況を勘案し、更なる配当性向引き上げも検討



株価推移



- 2021年10月29日の取締役会にて、新市場区分につき**プライム市場を選択することを決議**
- 一次判定結果では「流通株式時価総額」については、わずかに基準を充たしていない
- 「上場維持基準の適合に向けた計画書」を提出・開示することで、当面の間経過措置が適用される

	株主数	流通株式数	流通株式 時価総額	流通株式 比率	1日平均 売買代金
当社の状況 (移行基準日時点)	人 2,785	単位 52,317	億円 99	% 76.2	億円 0.9
上場維持基準	800	20,000	100	35.0	0.2
計画書に記載の項目			○		



- ☆ 業績の更なる向上による企業価値の最大化
- ☆ 従前以上に積極的な皆様との対話の場を創造

※ 詳細については、今月開示の
「上場維持基準の適合に向けた計画書」にて発表

注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。